

エッセイ Essay



「TIAにほんごきょうしつ」 17年の歩み

豊橋市国際交流協会
日本語指導ボランティア
佐々木 稔

豊橋市国際交流協会(TIA)の日本語指導ボランティアによる日本語教室「TIAにほんごきょうしつ」は、2014年度第1期(4~7月)現在、受講者259人が日本語指導ボランティア70人と一緒に、平日クラスは月曜~金曜の10時~12時まで、土曜日曜クラスは15時半~17時まで、地域に住む外国人市民が真剣にまた楽しく日本語を学んでいます。

「TIAにほんごきょうしつ」は、1997年5月に誕生し、今年で17年余りの歩みを重ねてきました。当初は単に「にほんごきょうしつ」と称していましたが、1999年5月から「TIAにほんごきょうしつ」という名称で活動していくことになりました。発足当時からボランティアとして関わってきた者として、その歩みを振り返ってみたいと思います。

TIAでは、以前より日本語教育の場として日本語講座が開かれていましたが、その修了者の中から日本語をもっと勉強したいという声が上がリ、それに応えるかたちで、日本語講師をしていた久野かおる氏が推進役となってボランティアによる日本語教室を開設することになり、「にほんごきょうしつ」が誕生しました。当初は土曜と日曜の2クラスで、第1回目のレッスンは1997年5月17日(土)3時半から、会場は以前TIAがあったビルの2階の会議室で、受講者、ボランティアとも10名内外だったように思います。レッスンは基本的にマンツーマン方式で、受講者の希望により初歩から中級、さらに日本語能力試験準備まで幅広いものでした。

翌年4月には、TIAが現在の開発ビルに移り、我々の教室も一挙にスペースが増えましたが、同時に受講希望者もボランティアも増え、教室は人で溢れかえるようになりました。また同年5月からは、平日での学習を希望する人のために平日クラス(月曜~金曜の10時~12時)を開設しました。こちらも、受講者の年齢も性別も出身地も日本語能力も様々で、原則マンツーマン方式でレッスンを行い現在に至っていますが、受講希望者に対してボランティアの数が足りないのが常態化しており、ボランティアが複数日出講し、それでも足りない時は、受講申込後かなりの期間待ってもらっており、現在

も受講待ちの人がいる状況です。

土曜日曜クラスは、完全なマンツーマン方式は不可能となり一部グループレッスンを取り入れましたが、それにも限界が出てきて2000年からクラス制と学期制を取り入れることになりました。当時使用していたメインの教科書「新日本語の基礎I,II」の全50課を10課毎に分けてA~Eの5クラスに振り当て、他に能力試験対策及び漢字クラスを加えて7~8クラス制とし、A~Eクラスは各期終了後に上のクラスへ進級する方式にしました。その後、ごく初心者のための入門クラス、Eクラス修了者のための中級クラス、受験級毎の能力試験対策クラス等受講者のニーズに合わせて適宜クラスを増やし、現状に近いクラス編成となりました。また1学期のレッスン数も当初は1期10レッスン、年4期でしたが、十分な学習時間が取れないという意見から徐々に増やし、現在の1期13レッスン、年3期で落ち着いています。教科書も「みんなの日本語」が刊行されてからは徐々にそちらに移行し、現在はA~E全てのクラスで使用しています。

受講者の数は社会状況に影響されるところが大きく、最も多い時期には収容可能数(140席)を超えてしまい、開発ビルの6階の会議室を借りてしのいだこともありました。現状は文頭で述べた通りですが、今後も日本語学習者がなくなることはないと思います。我々日本語指導ボランティアも自己の日本語能力、日本語指導力を高めてその需要にこたえ、多文化共生の一助になればと考えています。

